



池田 健吾さん

Ikeda Kengo

〔下横田区〕

いけだ・けんご / 前町消防団長。平成19年から町消防団の指揮を執り、本町の防災活動および防災意識の啓発活動に従事。今年3月で退団。

郷土の人々を助けたいと願う 責任感と使命感を結集して

「自分の身は捨てても地域の人々を助けようという責任感や使命感を一人ひとりが強く持つて、日々の訓練に取り組むことが消防団には大切」と語るのは、先月、町消防団長の任期を務め上げた池田健吾さん。2

期4年にわたり、本町の安全・安心の要として活動する町消防団を束ね、防災活動に尽力した。任期中は通常の活動に加えて、活動服の導入など団員の処遇改善に取り組むとともに、「団員一人ひとりの奮起を促す活動の

一環」として、自然水利などを示す看板の製作・設置なども実施し防災体制の充実を図った。先月に発生した「東北地方太平洋沖地震」での未曾有の災害発生を受け、防災活動の最前線に立った人間として、「災害時の活動は、消防団をはじめとしてすべて組織で動いているから指揮命令の一本化、伝達・返信の効率化が第一」と力説。「今回の災害では、情報の伝達が的

確にできていない印象を受ける。正確な情報がないと、人も組織も動くことができない」と、情報伝達の重要性を指摘する。

報道などを通して知る被災地の状況から、「救助隊なども活躍しているけれど、現場の底辺で一番活動しているのは、地域を知っている消防団員たち」と語る池田さん。「地域に根差しているからこそ、いち早く人命救助などでも動ける。そのためにも、団員の皆さんは地域の行事などに積極的に参加してコミュニケーションを取っておくことで、非常時に大きく役に立つと思う」と提言。そして何より、「団員として、日ごろから真剣に訓練しておくことが、非常時に真価を発揮することにつながる。訓練をがんばる姿を地域の人々が見ることで、地域の防災意識も高まる」と話す。

「防災の出発点は、団員も町民も一緒になって、一人ひとりが力を合わせて結集する意識。気持ちを合わせて束となり、力を発揮することで災害などの困難を解決できるはず」と述べ、郷土の安全・安心を、竹村浩二町消防団長以下団員たちに託す。